

至：本仁田山

登山道から外れ、岩場から転落し、
男性二人が遺体で発見された。奥多摩
駅まで直線距離であと500mだった。

奥多摩
線
大氷川

滑落地点

大氷川

奥多摩駅

705

氷川トンネル

ルートは推測

青梅線

二人が下山してきた道は、踏み跡はあるものの、いわばバリエーションルートであった。発見地点は、登山道からも外れた岩場の下だった。この発見の地点から下を見ると、氷川小学校や奥多摩駅が間近に見える。迷ったことを知りながらも、無理に降りようとしたのだろう。あと500mで下山できたという、誠に痛ましい遭難事故であった。（本文参照）

道迷いの不思議は、「あれっ。この道はおかしい。」と思っても、「なんとかなるだろう」と進んでしまうことである。しかも、崖が出てきても、引き返すことを考えない場合もあるのだ。

滑落した岩場には、二人が掛けたのであろう、スリングをつないで長くしたものをダブルにして5mほど垂らしてあったという。

道迷いから滑落に至ることは知られている。その行動は、遭難者自身が「行ける」と判断してしまうからである。もう一人の自分が進んではダメと言っても実際には進んでしまう。道迷いの心理は不思議である。